

みかい

安住院便り
(第25号)

平成22年8月1日発行

〒703-8236
岡山市中区国富3丁目1-29
住職 生駒琢一

TEL(086)272-2320 FAX(086)273-9327

後楽園

日本三名園は、水戸の「偕楽園」、金沢の「兼六園」と、岡山の「後楽園」ですが、由来は定かではありませんが、明治中頃以降用いられている、江戸時代の大名庭園であります。

その中で、岡山の後楽園は、岡山藩主池田綱政公により、元禄十三年（一七〇〇）に完成したのですが、お城の後というところで「後園」と呼ばれていましたが、（先憂後楽）の精神に基づいて造られていることから明治四年（一八七一）に「後楽園」と改められたと言うことです。

旭川の中州という地理的条件もありますが、岡山市内中心部でありながら、市街地と少し距離を置くことができ、静かな憩いの場所としての役割も大きいのです。築庭より五十年後、操山の現在の地に借景として安住院多宝塔が建造されましたが、多宝塔側から眺める後楽園も、写真のように二百五十年前よりは様変わりし、ビル群に囲まれています。その素晴しは変わりません。



当初は、藩主の居間「延養亭」を中心に、建物から眺望を楽しむ場でありましたが、後に池より水路を巡らし、庭を巡り歩き楽しむ回遊性の要素も加わってきました。藩主の好みや時代状況により景観を変化させてはきましたが、操山とその中腹に佇む多宝塔の存在は変わってはいません。代々の藩主も延養亭より、四季折々の眺めのなかで、多宝塔の点景も楽しまれていたことでしょう。

庭園というのは、人工的な自然美であります。特に日本庭園は、華やかな色の花々や幾何学的な造形ではなく、日本という風景を、日本人の心を表現しているものです。山川草木、全てを大事に思ながら、目の前にその自然を創り出し、心の安らぎを得ようとしているのです。

真言宗では、それを曼荼羅世界と呼びます。目耳鼻など人間の感覚で感じるもの全てが、仏様であると信じていることなのです。沢山の仏様を思いながら、自分もその曼荼羅の中に存在するのだという思いが、大切なのです。

今度、後楽園に入られたら是非、様々な場所を散策しながら、庭園のもつ素晴らしさを感じて下さい。そして、操山中腹の多宝塔も、再確認して下さいれば幸いです。

安住院ホームページ <http://www.anjuin.com/>

多宝塔修復工事完成

この七月末で、約五年に亘る安住院多宝塔修復工事も無事に完成致しました。御本尊をお戻ししたり、周辺整備が少し残ってはありますが、化粧直しされた素晴らしい雄姿は、二百五十年の時を越えて操山に佇んでいます。亀腹の白さも格別です。「きれいななったね」との言葉を聞くこと、嬉しく思います。この先も是非末永く、岡山の各所より一望できる塔であることを願っております。

数多くの皆様に支えられての修復工事であります。改めて各位には、感謝の気持ちを示したいと存じます。

十月初旬に、完成後の多宝塔見学会を、昨年通り開催する予定になっております。

この五年間、多宝塔の構造や歴史だけではなく、操山について、数多くのことを学ぶことが出来、充実した期間でした。



更に、今年十二月四日(土)には、後楽園鶴鳴館を会場として、修復工事完成記念の催しを企画しております。準備出来次第、ご案内申し上げますので、是非皆様、ご一緒に完成を祝して下さいれば幸いです。

灯籠流し

岡山市仏教会主催で、今年も例年通り、八月十六日六時半から、西川の緑道公園にて、灯籠流しを開催致します。

ご先祖様の供養のため、是非お詣りして、灯籠流しにご参加下さい。

瀬戸内観音霊場参拝

今年の四月二十二日、瀬戸内観音霊場参拝の第二回目を行いました。今回は備後北部及び備中西部の九ヶ寺を巡りました。

天候不順の昨今、冷たい雨の降り続く中での参りでしたが、雨の恵みもまた良しの思いで、転ばないよう、ゆっくりと歩を進めました。

山の中にひっそりと佇む古刹の数々ですが、このような素晴らしい場所に、観音様が導いて下さっていると感じ、また霊場巡りでないと訪れることが出来ないのかな、との思いもあり、一緒に頑張っ下さっている霊場会に感謝しながらのお参りでした。

残り二回、日帰り団参となりますので、ふるってご参加下さい。

次の予定は、十月二十五日(月)ですので、宜しくお願い致します。

